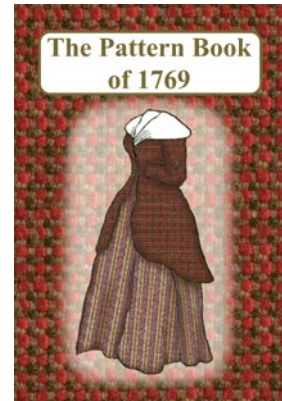


## The 21th century spinner reproduces the 18th century pattern book

18世紀英国の毛織物を、  
21世紀のスピナーが復元、  
産業革命以前のテキスタイル



# 21世紀

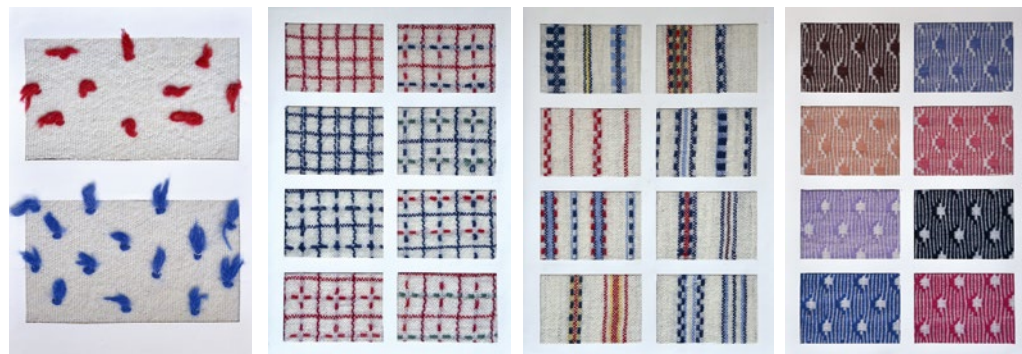
復元本 (2015年)  
author: 著者  
Pages 5-14©Kendal Civic Society 2010  
Pages 4&15-32,41©Sheila Phillips 2010  
Pages 34,36,38,40©Alison Ongley 2010  
All Kendal Pattern Book photo on pages 33,35,37,39  
©Lancs & Lakes Guild of Weavers  
Spinners & Dyers 2010  
Loom artwork@Mark Orgley



この本の著者 Alison Ongley と Barry Phillips. 二人ともこの本から復元された、18世紀スタイルの服を着ている。

さてこのパターンブックの原本は、生地商人だったクリュードソンが持ち歩いて、注文を取るために使った生地の見本帳です。そして300年の時を経て復元されたのが「The Pattern Book of 1769」です。

この本によって、私たちは18世紀の英国の庶民がどんなものを着ていたのかを知ることができます。それは現在の機械でつくる大量生産とは違う、手紡ぎ・手織り・草木染の毛織物です。今回の特集では、当時どのような工程で衣服が作られていたか、庶民がどのような服を着ていたかを紐解くとともに、18世紀の織物を復元したケンダルのギルドのスピナーたちにも光をあてます。(本出)



21世紀に復元された生地

## 特集



## 英国18世紀 産業革命直前のテキスタイル

# The Pattern Book of 1769

※特集の p2 ~ 25 におけるタテ書きは本出の文、ヨコ書きは復元本から抜粋した要約文です。

原本 (1769年)



# 18世紀

2017年、松本のクラフトフェアで私は糸車を回してデモンストレーションをしていました。そこへ…なんと吸い寄せられるように近づいてきたのがシエラさんと連れ合いのフィリップさんでした。

「何を紡いでるの?」  
「これはチェビオットです」  
「英国の??」  
「そう、英国のチェビオット」  
たったこれだけの言葉で、互いに何をするか、わかり合えました。わーっと話は盛り上がり、彼女が綴織の作家であることを知り、その時再会を約束しました。

2019年9月。私は英国の旅の目的に、是非彼女に会いたいと思いました。

ケンダルはイングランドの北西、マンチエスターの北、湖水地方はケンダルから北に車で2時間ほどです。そしてそのシエラさんの家で、私はこの本「The Pattern Book of 1769」(復元本)に出会いました。

ひと目で、そのカラフルな見本帳に目がくぎ付けになりました。シエラさんに聞けばギルドの仲間です。18世紀の生地を復元したのだと言います。その「The Pattern Book of 1769」には、一つ一つ生地サンプルが付いてい



18世紀の原本の生地見本帳の写真